

科目名			担当者	
現代国語表現			高橋 哲	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義・演習	60 時間	必修 4 単位	無

授業の目的 と 到達目標	受講生にとって、「日誌」という言葉でイメージされるのは、おそらく「学級日誌」ではないだろうか。そしてその作成は、当たり障りのないことを機械的に書けば済んでいたであろう。しかし、仕事上の「日誌」は、情報の共有・引き継ぎなどといった様々な意義を持ち、時に長文にならざるを得ないほど重要なものである。そこで本授業では、基本的な文章の書き方を確認しつつ、個人的な「日記」と実務的な「日誌」との違いを理解した上で、受講生に簡潔で分かりやすい日本語表現を身につけさせることを目標とする。			
授業の概要 達成 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・課題文の要約 ・「日記」と「日誌」との書き分け ・その日起こったことをメモした上での文章化 ・常体（だ、である調）、書き言葉を使いこなせるようにする ・誤字や脱字がなく、かつ簡潔で分かりやすい文章が書けるようにする 			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	自己紹介文作成	第 16 週	前期に学習した文章修正能力の確認	
第 2 週	常体と敬体の混じった文章の修正	第 17 週	自己 PR 文作成	
第 3 週	書き言葉と話し言葉の混じった文章の修正	第 18 週	口頭情報のメモ化	
第 4 週	誤字・脱字を含んだ文章の修正	第 19 週	メモしたものの文章化	
第 5 週	漢字・語句の学習①	第 20 週	漢字・語句の学習③	
第 6 週	漢字・語句の学習②	第 21 週	漢字・語句の学習④	
第 7 週	だらだらとした長い文の修正	第 22 週	課題文の要約③	
第 8 週	課題文の要約①	第 23 週	課題文の要約④	
第 9 週	課題文の要約②	第 24 週	日記を書く②	
第 10 週	日記を書く①	第 25 週	日誌を書く②	
第 11 週	日誌を書く①	第 26 週	日誌の自己点検をする	
第 12 週	葉書・手紙の書き方	第 27 週	日記を書く③	
第 13 週	メールの書き方	第 28 週	日誌を書く③	
第 14 週	履歴書作成	第 29 週	日誌の他者からの点検を受ける	
第 15 週	前期試験対策	第 30 週	後期試験対策	
成績評価方法	提出物 50% 定期試験 50%			
教科書	『日本語表現法』田上貞一郎、萌文書林			
参考書	特になし			
備	考			

科目名			担当者	
英語表現			馬内 里美	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	<p>目的：福祉・介護領域の学修に関連した英文学習による英語力全般の強化 目標：必要な情報を読み取る読解技術の修得 福祉・介護に関する語彙力の修得</p>			
授業の概要 達成課題	<p>福祉・介護に関する具体的な話題を扱う英文を通して、主に次のことを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体系的な語彙力の習得 訳読に頼らず必要な情報を探し出し、内容理解を目指す 全体の内容を把握したうえで、英文を正確に読む 			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週 コミュニケーション トピックセンテンスの理解・語彙解説 第 2 週 コミュニケーション 語彙チェック 英文解説 第 3 週 介護の 4 つの原則 トピックセンテンスの理解・語彙解説 第 4 週 介護の 4 つの原則 語彙チェック 英文解説 第 5 週 補助器具の使用 トピックセンテンスの理解・語彙解説 第 6 週 補助器具使用上の注意点 語彙チェック 英文解説 第 7 週 介護における食事 トピックセンテンスの理解・語彙解説 第 8 週 食事介護の注意点 語彙チェック 英文解説 第 9 週 排せつ介助 トピックセンテンスの理解・語彙解説 第 10 週 排せつ介助の注意点 語彙チェック 英文解説 第 11 週 入浴介助 トピックセンテンスの理解・語彙解説 第 12 週 入浴介助の注意点 語彙チェック 英文解説 第 13 週 着衣・身づくろいの意義 トピックセンテンスの理解・語彙解説 第 14 週 着衣・身づくろい介助の注意点 語彙チェック 英文解説 第 15 週 まとめ				
成績評価方法	各課の練習問題 35% 各課の単語テスト 35% 期末試験 30%			
教科書	「A Helping Hand 福祉・介護系学生のための総合英語」清水雅子（南雲堂）			
参考書	プリント適宜配布			
備考	英和辞書（電子辞書可）を持参すること			

科目名			担当者	
心理学理論と心理的支援			坂本 一真	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、人間の知覚、記憶、学習、発達、社会的認知等、心理学の基礎的な理論を学び、人間についての理解を深めることを目的とする。また、心理的視点から福祉実践を捉え、心理的支援に関する技法を学ぶことを目標とする。</p> <p>※公認心理師・臨床心理士としての相談援助（教育・医療の分野）の経験を持つ教員が、心理学概論及び心理的支援についての授業を指導する。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>心理学に関する全般的な知識を習得する。グループワークや模擬体験を通して、自己理解・他社理解を深める。小レポートによる知識の定着を図る。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	心理学とは	第 16 週	人間関係と集団	
第 2 週	〃	第 17 週	〃	
第 3 週	性格	第 18 週	対人交流とコミュニケーション	
第 4 週	〃	第 19 週	〃	
第 5 週	感情	第 20 週	発達	
第 6 週	〃	第 21 週	〃	
第 7 週	欲求・動機づけと行動	第 22 週	〃	
第 8 週	〃	第 23 週	〃	
第 9 週	感覚・知覚・認知	第 24 週	適応とストレス	
第 10 週	〃	第 25 週	〃	
第 11 週	学習・記憶	第 26 週	面接・見立て・心理療法	
第 12 週	〃	第 27 週	〃	
第 13 週	知能・創造性・思考	第 28 週	〃	
第 14 週	〃	第 29 週	心と脳	
第 15 週	まとめ	第 30 週	まとめ	
成績評価方法	<p>小レポート (50%) 定期試験による評価 (50%)</p>			
教科書	<p>社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会新福祉士養成講座② 心理学理論と心理的支援』 中央法規</p>			
参考書	<p>必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する</p>			
備考				

科目名			担当者	
健康スポーツ実習(レクリエーションワーク含む)			太田 清美	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	実技	45時間	必修 1単位	無

授業の目的と到達目標	体力や年齢、目的に応じてスポーツを楽しむように様々なスポーツを体験し、ライフスタイルに合わせたルールや道具の改良をアレンジしながら生涯スポーツに慣れ親しむ基礎的能力を身に付けることを目標とする。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツやニュースポーツを体験し、楽しさや面白さ、効果に気づく。 ・個人・対人・集団などの競技の特性を知り、対象者に応じたルールの道具の改良を楽しむことができる。 ・ルールの説明やアレンジした楽しみ方を説明することができる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 ガイダンス、形態測定 第2週 体力測定 第3週 ウォーキング 第4週 ポールウォーキング 第5週 クップ/モルック 第6週 バトミントン 第7週 バレーボール 第8週 バスケットボール 第9週 卓球 第10週 ターゲットバドゴルフ 第11週 ユニカール/シャフルボード 第12週 キンボール 第13週 インディアカ 第14週 アルティメット 第15週 まとめ	
成績評価方法	授業中のゲームの遂行や準備に対する積極的な態度などによる評価 60% 実技内評価・課題レポート 40%
教科書	
参考書	ビジュアルスポーツ小百科 大修館書店
備考	実技科目であるのでジャージと体育館シューズ準備すること。 毎回レポートを作成して、授業終了後に提出してもらいます。

科目名			担当者	
総合学習			相澤 洋子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2年次・通年	実習・演習	60 時間	必修 1 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験合格を目指し、そのためには何が必要か、どのような学習が効果的かを自身で考え学習できる。 ・自己学習を徹底し、継続して学び続けることで自身の弱点を見つけ、それを克服しようとひたむきに取り組むことができる。 <p>* 大学病院・福祉施設等で看護師として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。</p>			
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験合格水準に到達できるようにする。 			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
《テーマ/課題/宿題等を箇条書きで記載》				
第 1 週	オリエンテーション	第 16 週	模擬試験問題	解説
第 2 週	領域「人間と社会」国家試験対策①	第 17 週	模擬試験問題	解説
第 3 週	領域「人間と社会」国家試験対策②	第 18 週	模擬試験問題	解説
第 4 週	領域「介護」国家試験対策①	第 19 週	模擬試験問題	解説
第 5 週	領域「介護」国家試験対策②	第 20 週	国家試験過去問題	解説
第 6 週	領域「こころとからだのしくみ」国家試験対策①	第 21 週	国家試験過去問題	解説
第 7 週	領域「こころとからだのしくみ」国家試験対策②	第 22 週	国家試験過去問題	解説
第 8 週	国家試験過去問題	第 23 週	模擬試験問題	解説
第 9 週	国家試験過去問題	第 24 週	模擬試験問題	解説
第 10 週	模擬試験過去問題	第 25 週	模擬試験問題	解説
第 11 週	模擬試験過去問題	第 26 週	国家試験過去問題	解説
第 12 週	国家試験過去問題	第 27 週	国家試験過去問題	解説
第 13 週	国家試験過去問題	第 28 週	国家試験過去問題	解説
第 14 週	国家試験過去問題	第 29 週	国家試験過去問題	解説
第 15 週	国家試験過去問題	第 30 週	国家試験過去問題	解説
成績評価方法	課題提出物 30%、模擬試験 70%			
教科書				
参考書	介護福祉士国家試験過去問題解説集 中央法規			
備考	自分に合った勉強方法を確認し、自宅での学習を充実させていきましょう。			

科目名			担当者	
人間の理解（人間の尊厳と自立）			板垣 直子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ “人” を理解する ・ “人” が生きるということを理解する ・ “人” の生活を理解する ・ 基本的人権を理解する ・ 社会福祉の基本理念（尊厳の保持と自立支援）を理解する ・ 権利擁護の視点（虐待、身体拘束、アドボカシー）を育む ・ 介護福祉士の価値と職業倫理を理解する <p>※社会福祉士として相談援助業務経験があり、介護教員講習会修了者がこの科目を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>社会福祉は、社会を構成する全ての人々の基本的人権や人間の尊厳に深い関心を持つことが基盤となる。社会から排除されがちな人々に対する社会的な偏見や差別を克服、その人々らの権利を擁護し、共に生きるために必要な支援とは何かについて考察できる資質を陶冶する。対象者への基礎理解のために社会福祉の基本理念や福祉従事者の専門性の理解、基礎的な知識の習得を行い、将来、サービス対象者の自立を支援する介護福祉士として活躍できる土台づくりを目標とする。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 オリエンテーション</p> <p>第 2 週 社会的存在としての人間</p> <p>第 3 週 社会福祉の基本理念～尊厳の保持と自立支援～</p> <p>第 4 週 社会福祉制度の変遷と権利保障</p> <p>第 5 週 措置から契約へ～契約制度の特質～</p> <p>第 6 週 権利擁護の視点①虐待、身体拘束</p> <p>第 7 週 権利擁護の視点②アドボカシーとエンパワメント</p> <p>第 8 週 介護福祉士の価値と職業倫理①価値観と自己覚知</p> <p>第 9 週 介護福祉士の価値と職業倫理②学ぶべき価値と倫理</p> <p>第 10 週 介護福祉士の価値と職業倫理③倫理的ディレンマ</p> <p>第 11 週 生活支援とは</p> <p>第 12 週 主体性を引き出す支援～心を動かす介護とは～</p> <p>第 13 週 自立支援と社会保障～ I L 運動、ノーマライゼーション～</p> <p>第 14 週 生活ニーズとアセスメント</p> <p>第 15 週 まとめ</p>	
成績評価方法	・ 定期試験 70%、平常点 30%（レポート、小テスト）の合計 100%で評価する
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『新版介護福祉士養成講座①人間の理解』介護福祉士養成講座編集委員会編集，中央法規出版，2019 ・ 『社会福祉用語辞典』中央法規出版編集部編集，中央法規出版，2010 ・ 『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房編集部，ミネルヴァ書房出版，2020
参考書	・ 適宜プリント配布
備考	・ 介護福祉士の核となる科目の一つに入るため、授業の遅刻欠席早退は基本的に認めない。

科目名			担当者	
人間の理解（人間関係とコミュニケーション）			板垣 直子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間関係形成にコミュニケーションが重要であることを理解する ・ 基本的なコミュニケーションを習得する ・ 基本的な面接技法を習得する ・ 生活場面面接の事例を通しグループディスカッションを行う ・ 機器を用いたコミュニケーションを学ぶ ・ チームワークにおけるコミュニケーションを学ぶ ・ 介護の諸記録について理解する <p>※社会福祉士として相談援助業務経験があり、介護教員講習会修了者がこの科目を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>介護実践において、利用者に対してその場に応じた適切な声掛けを自然に行えるようになるためには、円滑な信頼関係の構築を目指さねばならない。また、利用者に対する最善のケアを行うために、職員同士チームアプローチの関係を築き上げていかなければならない。ここでは、適宜演習をおりませながら、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習を行う。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 オリエンテーション～人間関係の形成とは～</p> <p>第 2 週 プレーン・ストーミング、KJ法の活用</p> <p>第 3 週 支援関係における人間関係の形成（職業倫理を深める）</p> <p>第 4 週 対人関係とコミュニケーション</p> <p>第 5 週 言語的コミュニケーション</p> <p>第 6 週 記述によるコミュニケーション</p> <p>第 7 週 非言語的コミュニケーション</p> <p>第 8 週 受容と共感</p> <p>第 9 週 傾聴</p> <p>第 10 週 基本的な面接技法～繰り返し・明確・要約～</p> <p>第 11 週 事例検討を用いたグループディスカッション①</p> <p>第 12 週 事例検討を用いたグループディスカッション②</p> <p>第 13 週 機器を用いたコミュニケーション</p> <p>第 14 週 同僚・多職種とのコミュニケーション</p> <p>第 15 週 まとめ</p>	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 70%、平常点 30%（レポート、小テスト）の合計 100%で評価する
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『新版介護福祉士養成講座①人間の理解』介護福祉士養成講座編集委員会編集，中央法規出版，2019 ・ 『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房編集部，ミネルヴァ書房出版，2020 ・ 『五訂社会福祉用語辞典』中央法規出版編集部編集，中央法規出版，2010
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適宜プリント配布
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護福祉士の核となる科目の一つに入るため、授業の遅刻欠席早退は基本的に認めない。

科目名			担当者	
社会制度の理解			伊藤 利恵 佐藤 紀子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	無

授業の目的と到達目標	<p>現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係を理解することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉政策の課題について考えることができる。 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解することができる。 福祉施策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解することができる。 			
授業の基礎編達成課題	<p>「人の生活を支援する」という観点から様々な世代が共生することを支える社会制度のあり方について学ぶ。今日の福祉は、従来のような限られた者の保護・救済にとどまらず、国民全体をその対象とし、家庭や地域の中でその人らしい生活が送れるように支援することが重要視されている。本講義は、私的な領域で起こる家族の問題（子育て、看護、介護）を社会構造上の問題として捉える社会学的視点の獲得を目標とし、知識の習得を通して、支援の重要性や人が生活することを支えるケアを導く思考を育てようとするものである。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	社会と生活の仕組み—①生活の基本機能—	第 16 週	社会保障制度—⑥雇用保険—	
第 2 週	社会と生活の仕組み—②ライフスタイルの変化—	第 17 週	社会保障制度—⑦生活保護—	
第 3 週	社会と生活の仕組み—③家族—	第 18 週	社会保障制度—⑧生活保護—	
第 4 週	社会と生活の仕組み—④社会、組織—	第 19 週	社会保障制度—⑨生活保護—	
第 5 週	社会と生活の仕組み—⑤地域、地域社会—	第 20 週	社会保障制度—⑩社会手当—	
第 6 週	社会と生活の仕組み—⑥地域社会における生活支援—	第 21 週	援助に関わる制度—①日常生活自立支援事業—	
第 7 週	地域共生社会の実現に向けた制度や施策—①地域福祉の発展—	第 22 週	援助に関わる制度—②成年後見制度—	
第 8 週	地域共生社会の実現に向けた制度や施策—②地域共生社会—	第 23 週	援助に関わる制度—③苦情解決、第三者評価—	
第 9 週	地域共生社会の実現に向けた制度や施策—③地域包括ケア—	第 24 週	高齢者福祉施策—①高齢者福祉の概念—	
第 10 週	社会保障制度—①社会保障の基本的な考え方—	第 25 週	高齢者福祉施策—②介護保険制度—	
第 11 週	社会保障制度—②日本の社会保障制度の発達—	第 26 週	障害者福祉施策—①障害の概念—	
第 12 週	社会保障制度—③日本の社会保障制度の発達（社会福祉制度の発達含む）—	第 27 週	障害者福祉施策—②障害者総合支援法の仕組み—	
第 13 週	社会保障制度—④日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解—	第 28 週	民間の福祉	
第 14 週	社会保障制度—⑤現代社会における社会保障制度の課題—	第 29 週	共生社会の実現に向けて	
第 15 週	まとめ	第 30 週	まとめ	
成績評価方法	<p>評試験（70%） 小テスト・課題・レポート（30%）</p>			
教科書	最新 介護福祉士養成講座 2 編集 介護福祉士養成講座編集委員会「社会の理解」中央法規			
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する。			
備考				

科目名			担当者	
ライフデザイン学			永沼 和子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講義	30 時間	選択 2 単位	無

授業の目的 と 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活者として心豊かに生活をするようになる。 豊かな人生設計の実現と、健康で安全な生活を営めるようになる。 <p>介護を必要とする対象者の生活の質を高め、生きる意欲に結びつく援助が出来るような介護福祉士になるため、家族・福祉、衣食住、消費生活等に関する基本的な知識と技術を学習し、生活者の視点から管理する能力を養うことを到達目標とする。</p>
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りの環境を見直す。また、生活に関する基本的なことを学習していく。 様々な事例や資料などを紹介しながら、心身の機能、人生の中で遭遇する困難、障害に対する支援の方法、生活環境の整備などを考えていく。 <p>私たちの生活を、心身の健康問題から生活機器、すまい、まちという環境の問題までを視野に入れて把握、分析、創造していけるようになること。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 オリエンテーション , 人の一生① 【自分を見つめる・表現する】</p> <p>第2週 人の一生② 【ライフスタイルを模索する】</p> <p>第3週 家族と福祉① 【家族と結婚の歴史】</p> <p>第4週 " ② 【世帯単位から個人単位へ】</p> <p>第5週 " ③ 【高齢社会を生きる】</p> <p>第6週 " ④ 【これからの死に方】</p> <p>第7週 衣生活について① 【被服の機能 , 被服材料 , 被服の管理】</p> <p>第8週 " ② 【高齢者・障害者の衣生活】</p> <p>第9週 食生活について① 【食生活と生きがい , 安全に食べる】</p> <p>第10週 " ② 【高齢者・障害者の食生活】</p> <p>第11週 住生活について① 【住まいの役割 , 住まいの間取り】</p> <p>第12週 " ② 【室内環境の整備 , 安全・安心な高齢者・障害者の住まい】</p> <p>第13週 消費生活① 【家計の構造】</p> <p>第14週 " ② 【消費者問題と高齢者・障害者の消費者被害】</p> <p>第15週 まとめ 【「生活設計」によって自分を生かす】</p>	
成績評価方法	・レポート (50%)、定期試験 (50%)
教科書	ライフデザイン学入門 第2版 古川孝順・内田雄造・小澤温・鈴木哲郎・高橋儀平・誠信書房
参考書	毎回、資料・プリント配布
備考	自分を知ることは、他者を知る手がかりにもなります。まずは、いままでの生活を振り返り、これからの長い人生を考えてみましょう。

科目名			担当者	
社会福祉法制			板垣 直子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・後期	講義	30 時間	選択 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>社会福祉を制度としてとらえる視点を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉に関する主な法令・制度について、その現状および問題点を考えることができる。 ・ どのような社会福祉サービスがあるのか理解することができる。 <p>*社会福祉士として相談援助業務実務経験者がこの科目を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>社会福祉施策における法制度の意義や役割、社会福祉の理念や現状の法制度との関係など、社会福祉諸領域の制度・法について基本的な知識の習得を目標とする。いわゆる「福祉六法」など主要な福祉関係法律の概要理解、各法間の関連の実相、特に介護保険制度と障害者自立支援制度について、導入に至った経緯、制度の目的、その仕組みを学ぶ。その内容から、社会福祉と生存権の関係を理解し、さまざまな福祉制度が利用者にとってどのような意味を持つのかを考察する。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第 1 週 社会福祉の法体系と目的 第 2 週 介護保険制度と障害者自立支援制度 第 3 週 サービス利用者の権利擁護 第 4 週 社会福祉事業法から社会福祉法へ 第 5 週 民会社会福祉事業 第 6 週 セーフティネットとしての生活保護法 第 7 週 生活保護法と生存権 第 8 週 児童福祉法と施策の展開 第 9 週 子どもの権利条約と子どもの権利保障 第 10 週 現代社会と母子施策、DV法 第 11 週 措置制度と老人福祉施策 第 12 週 雇用問題と障害者福祉法 第 13 週 「施設解体宣言」にみる障害者施策 第 14 週 精神障害者、発達障害者への理 第 15 週 まとめ</p>	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テスト (30%)、定期試験 (70%)
教科書	ミネルヴァ書房編集部編『ミネルヴァ社会福祉六法 2020』ミネルヴァ書房
参考書	随時紹介する
備考	

科目名			担当者	
ボランティア活動論			伊藤 利恵	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義	30 時間	選択 2 単位	無

授業の目的と到達目標	社会福祉領域におけるボランティア活動の位置づけとボランティアの自発性の理解をする。
授業の概要 達成課題	介護福祉士として地域や社会に貢献していく活動場面において、ボランティアとよりよい連携できるようお互いの役割や、関係について認識ができる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	ボランティアの基本精神
第 2 週	ボランティアの 4 原則
第 3 週	親切とボランティアと社会福祉
第 4 週	ボランティアと行政の福祉サービスの取り組みの違い①
第 5 週	ボランティアと行政の福祉サービスの取り組みの違い②
第 6 週	自発性パラドックス
第 7 週	ボランティア活動の歴史の変遷
第 8 週	日本のボランティア活動とボランティア観の変遷① ～第二次世界大戦前・後・高度成長期～
第 9 週	日本のボランティア活動とボランティア観の変遷② ～オイルショック期から現在まで～
第 10 週	NPO と NGO
第 11 週	NPO 法人と任意団体との違い
第 12 週	ボランティアセンター
第 13 週	行政福祉サービスと福祉施設の関係
第 14 週	行政福祉サービスと福祉施設とボランティアの関係
第 15 週	ボランティア活動のためのインストラクション
成績評価方法	・小テスト・課題・レポート (30%)、定期試験 (70%)
教科書	よくわかる NPO、ボランティア 川口清史、田尾雅夫、新川達郎 編 ミネルヴァ書房
参考書	
備考	

科目名			担当者	
高齢者福祉論			渡辺 英隆	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>急速な高齢化の進展に伴い 21 世紀半ばには 3 人に 1 人が 65 歳以上という超高齢社会が到来することが予想される。このような現状をふまえ、現代社会における高齢者福祉の概念・意義について理解するとともに、高齢者の精神的・身体的特徴や障害、高齢者福祉のニーズ、方法およびサービスの体系について学習し、高齢者に対する福祉サービスの現状について理解する。</p> <p>*高齢者福祉研究・研修期間において研究・研修等の経験を持つ教員が、高齢者福祉の授業を指導する。</p>			
授業の概要達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における高齢者福祉の概念・意義について理解できる。 ・高齢者の身体的・精神的特性や社会的・経済的特性について理解できる。 ・高齢者保健福祉の法体系について理解できる。 ・介護保険制度の仕組み及びサービス体系について理解する。 ・高齢者支援の方法と実際について理解できる。 			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	高齢者の特性①社会的理解・身体的理解	第 16 週	介護保険のサービス体系①居宅サービス	
第 2 週	高齢者の特性②精神的理解・総合的理解	第 17 週	介護保険のサービス体系②施設サービス	
第 3 週	少子高齢社会の特徴	第 18 週	介護保険のサービス体系③介護予防サービス	
第 4 週	高齢者を取り巻く諸問題	第 19 週	介護保険のサービス体系④地域密着サービス	
第 5 週	高齢者の歴史	第 20 週	高齢者支援の方法と実際	
第 6 週	高齢者保健福祉の発展と法体系	第 21 週	高齢者を支援する組織と役割	
第 7 週	老人福祉法	第 22 週	専門職の役割と実際	
第 8 週	高齢者の医療の確保に関する法律	第 23 週	介護過程	
第 9 週	高齢者虐待防止法	第 24 週	介護各論①自立に向けた介護・家事の介護	
第 10 週	その他の関係法規	第 25 週	介護各論②家事における自立支援	
第 11 週	介護保険法①目的と理念	第 26 週	介護各論③身支度・移動・睡眠の介護	
第 12 週	介護保険法②保険財政	第 27 週	介護各論④食事・口腔衛生の介護	
第 13 週	介護保険法③保険者と被保険者	第 28 週	介護各論⑤入浴・清潔・排せの介護	
第 14 週	介護保険法④要介護認定の仕組みとプロセス	第 29 週	介護各論⑥認知症ケア	
第 15 週	介護保険法⑤保険給付と介	第 30 週	介護各論⑦終末期ケア	
成績評価方法	レポート課題及び小テストによる評価 30%、学期末定期試験による評価 70%により総合的に評価する			
教科書	新・社会新福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 中央法規出版			
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する			
備考				

科目名			担当者	
リハビリテーション論			相澤 洋子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	講義	30 時間	選択 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの理念と基本原則を理解させる。 ・障害の程度とその影響を理解させる。 ・リハビリテーションの展開過程について理解させる。 ・日常生活の自立支援及び社会生活能力の維持拡大への援助について理解させる。 * 大学病院・福祉施設等で看護師として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。
授業の概要達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、医学面の基礎的な知識の理解、体得ができるようにする。 ・実際の介護が行うさまざまな生活支援とその意義について学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 地域リハビリテーションの意義 第 3 週 地域リハビリテーションの支援体制 第 4 週 日常生活と社会生活能力の維持・拡大 第 5 週 リハビリテーション分野の専門職との連携 第 6 週 脳卒中による失語症・片麻痺患者 第 7 週 脳卒中による片麻痺高齢者 第 8 週 四肢麻痺の若年障害者 第 9 週 視覚障害と聴覚障害を持つ人 第 10 週 閉じこもりがちな APD 患者 第 11 週 障害の理解と受容への支援 第 12 週 知的障害者の成人期の支援 第 13 週 生活環境改善の援助 第 14 週 精神障害者の就労のサポート 第 15 週 在宅発達障害児へのかかわり	
成績評価方法	期末テスト 80%・レポート課題等による総合評価 20%
教科書	最新介護福祉全書 別巻 2 リハビリテーション論
参考書	授業内で適宜指示。自作教材プリントを配布。
備考	上記成績評価方法に合わせ、平素の授業態度、学習意欲も重要視し、評価に加味します。

科目名			担当者	
生活アクティビティ			山内 直子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	演習	60 時間	選択 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の特性に合わせたレクリエーションプログラムの計画の作成能力や実践援助能力を向上させる。 ・福祉現場でのレクリエーション活動の具体的な事例を用いて、援助に必要な技術や理論の理解を深める。 ・心身を元気にするレクリエーション支援の社会的役割に関心を持つ。 <p>*福祉レクリエーションワーカーとして、介護福祉施設等で支援活動の経験のある教員が生活アクティビティの指導を行う。</p>			
授業の概要達成課題	<p>利用者のQOLの向上に向けて、支援のプロセス（A-P I Eプロセス）を理解し、アセスメントの考え方やその方法について学ぶ。</p> <p>現代の社会課題から、心身を元気にするためにレクリエーションの果たす役割を理解し、援助するための基礎理論を学ぶ。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	社会福祉におけるレクリエーションの意義と支援者の役割	第 16 週	高齢者者のレクリエーション援助展開 I	
第 2 週	楽しさを通じた心の元気づくりと地域のつながり	第 17 週	高齢者者のレクリエーション援助展開 II	
第 3 週	ライフステージと心の元気づくり	第 18 週	障害者のレクリエーション援助展開 I	
第 4 週	コミュニケーションと信頼関係づくり	第 19 週	障害者のレクリエーション援助展開 II	
第 5 週	集団内のコミュニケーションの促進	第 20 週	レクリエーション活動の習得「ニュースポーツ I」	
第 6 週	信頼関係づくりの方法「ホスピタリティ I」	第 21 週	レクリエーション活動の習得「ニュースポーツ II」	
第 7 週	信頼関係づくりの方法「ホスピタリティ II」	第 22 週	レクリエーション活動の習得「障害者スポーツ」	
第 8 週	良好な集団作りの方法「アイスブレイキング I」	第 23 週	アレンジの考え方と方法	
第 9 週	良好な集団作りの方法「アイスブレイキング II」	第 24 週	アレンジの実践 I	
第 10 週	成功体験と対象者とのかわり	第 25 週	アレンジの実践 II	
第 11 週	自主・自発的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開法	第 26 週	レクリエーションプログラムの立案 I	
第 12 週	レクリエーション活動計画の作成・実施上の配慮	第 27 週	レクリエーションプログラムの立案 II	
第 13 週	活動計画の作成 I	第 28 週	レクリエーションプログラムの実施 I	
第 14 週	活動計画の作成 II	第 29 週	レクリエーションプログラムの実施 II	
第 15 週	活動計画の作成 III	第 30 週	レクリエーションプログラムの評価	
成績評価方法	定期テスト 30%・実技テスト 50%・作品 20%などによる総合評価			
教科書	『楽しさとおとした心の元気づくり』公益財団法人日本レクリエーション協会			
参考書	『懐かしい歌・思い出の歌』成美堂			
備考	演習が伴うので動きやすい服装、履き物で参加することが望ましい。			

科目名			担当者	
手話演習 I			奥田 育代	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	演習	60 時間	選択 2 単位	無

授業の目的と到達目標	<p>目 的：耳の不自由な方々とのコミュニケーション手段の獲得</p> <p>達成目標：・日常会話に必要な手話表現ができる</p> <p>・聴覚障害者および手話への理解を深めることができる</p>			
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日常会話に必要な手話単語の導入、自然な順序で習得する ・手話の読み取り力や表現力を身につけてコミュニケーション力を高める ・指文字の習得 ・聴覚障害やろう文化を理解する 			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	「名前」	第 16 週	手話ソング①、検定対策①	
第 2 週	「家族」	第 17 週	手話ソング②、検定対策②	
第 3 週	「自己紹介」	第 18 週	手話ソング③、検定対策③	
第 4 週	「略歴」	第 19 週	手話ソングステージに向けて④	
第 5 週	「曜日」	第 20 週	「仕事」	
第 6 週	「タイムテーブル」	第 21 週	「約束、待ち合わせ」	
第 7 週	「通勤通学」	第 22 週	「地震、日常生活」	
第 8 週	「嗜好品」	第 23 週	「友人知人の紹介、特技」	
第 9 週	「食習慣」	第 24 週	「学校、学科」	
第 10 週	「スポーツ」	第 25 週	「健康保持」	
第 11 週	「旅行」	第 26 週	「介護、建物」	
第 12 週	「病気と怪我」	第 27 週	総まとめ①	
第 13 週	「自動車」	第 28 週	実技テストに向けて	
第 14 週	「家」	第 29 週	実技テスト	
第 15 週	手話検定 4 級までの基本単語	第 30 週	総まとめ②	
成績評価方法	<p>積極的な演習参加、授業態度、手話によるコミュニケーション能力（以下の点）などにより総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な手話単語、会話内容が理解できるかどうか ・相手の言いたいことを理解し、応対できるかどうか <p>手話単語小テスト（10%）指文字小テスト（10%）読み取りテスト（30%）実技テスト（50%）</p>			
教科書	なし			
参考書	必要に応じて資料を配布します。			
備考	<p>手話は言語コミュニケーションに「身体」や「目」を使います。</p> <p>それによって聴覚障害だけでなく、言語障害など抱える方、外国人、乳幼児との意思疎通にも効果的であり、様々な方々との交流を深めて自己表現力を高めていただけたらと思います。</p>			

科目名			担当者	
手話演習Ⅱ			奥田 育代	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	演習	60 時間	選択 2 単位	無

授業の目的と到達目標	<p>目的：耳の不自由な方々とのコミュニケーション手段の獲得</p> <p>達成目標：・日常会話に必要な手話表現ができる</p> <p>・聴覚障害者および手話への理解を深めることができる</p> <p>・施設内および在宅サービス等で手話で対応することができる</p>
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日常会話に必要な手話単語の導入、自然な順序で習得する ・手話の読み取り力や表現力を身につけてコミュニケーション力を高める ・指文字の習得 ・聴覚障害やろう文化を理解する ・福祉の現場など手話での応対ができる
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 「自己紹介」 第 2 週 復習「指文字、挨拶、数字、人物」 第 3 週 「一日と一週間、動作」 第 4 週 「時を表す言葉」 第 5 週 「感情・気持ち、性格」 第 6 週 「反対語」 第 7 週 「仕事」 第 8 週 「健康・病気」 第 9 週 「交通」 第 10 週 「社会」 第 11 週 「普段使いの言葉」 第 12 週 「日用品・家電」 第 13 週 「買い物・お店・金銭」 第 14 週 手話検定 4 級までの基本単語復習 第 15 週 手話検定 3 級までの基本単語	第 16 週 手話ソング①、検定対策① 第 17 週 手話ソング②、検定対策② 第 18 週 手話ソング③、検定対策③ 第 19 週 手話ソングステージに向けて④ 第 20 週 「旅・建物」 第 21 週 「症状・病気」 第 22 週 「院内、部屋」 第 23 週 「介護の現場でよく使う言葉①」 第 24 週 「健康管理」 第 25 週 「レクリエーション」 第 26 週 「介護の現場でよく使う言葉②」 第 27 週 総まとめ① 第 28 週 実技テストに向けて 第 29 週 実技テスト 第 30 週 総まとめ②
成績評価方法	<p>積極的な演習参加、授業態度、手話によるコミュニケーション能力（以下の点）などにより総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な手話単語、会話内容が理解できるかどうか ・相手の言いたいことを理解し、意図的にコミュニケーションがとれているか <p>手話単語小テスト（10%）指文字小テスト（10%）読み取りテスト（30%）実技テスト（50%）</p>
教科書	太田先生作テキスト
参考書	必要に応じて資料を配布します。
備考	令和元年 6 月に宮城県で「手話言語条例」の単独制定を検討すると示されており、今後手話のできる職員の需要が高まると予想されます。耳の不自由な方々とのコミュニケーションを円滑に進めるための手立てを身につけて、社会性も高めていただけると嬉しいです。

科目名			担当者	
コンピューター演習			宇川 雅晴	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>マイクロソフト社のアプリケーションソフト Word[®]、Excel[®]、PowerPoint[®]を用い、介護実務に必要な記録文書の作成、会計等事務作業、発表資料作成等のビジネススキルを習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的なビジネス文書を作成することができる 基本的な表計算処理の技能を習得する ビジネスシーンを想定した標準的なプレゼンテーションを作成することができる 全経文書処理能力検定試験の合格を目標とする。 サーティファイ PowerPoint[®]プレゼンテーション技能認定試験の合格を目標とする。 <p>※情報機器メーカーの設計技術部門で勤務経験のある教員が、アプリケーションソフトウェアの演習授業を指導する。</p>			
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Word[®]の基本操作 Microsoft Excel[®]の基本操作 Microsoft PowerPoint[®]の基本操作 文書処理能力検定試験の対策を行い、合格を目指す。 PowerPoint[®]プレゼンテーション技能認定試験の対策を行い、合格を目指す。 			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	Word の基本的操作	第 16 週	セルの参照と順位付け	
第 2 週	文字入力練習	第 17 週	PowerPoint の基本知識	
第 3 週	文書作成の基礎知識	第 18 週	プレゼンテーションの作成	
第 4 週	各種文書作成	第 19 週	プレゼンテーションの構成とデザイン	
第 5 週	各種文書作成	第 20 週	文字の編集・オブジェクトの作成	
第 6 週	文書作成演習	第 21 週	クリップアート・グラフ等の挿入	
第 7 週	文書作成演習	第 22 週	表示効果とハイパーリンク	
第 8 週	文書作成演習	第 23 週	スライドショーの実行	
第 9 週	文書処理能力検定試験対策	第 24 週	検定試験対策 (練習問題 1)	
第 10 週	文書処理能力検定試験対策	第 25 週	検定試験対策 (練習問題 2)	
第 11 週	文書処理能力検定試験対策	第 26 週	検定試験対策 (練習問題 3)	
第 12 週	Excel の基本的操作	第 27 週	検定試験対策 (練習問題 4)	
第 13 週	ワークシート編集	第 28 週	模擬問題 1	
第 14 週	関数の利用	第 29 週	模擬問題 2	
第 15 週	グラフ	第 30 週	模擬問題 3	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 提出物 			
教科書	「30 時間でマスター Office 2019」実教出版 「PowerPoint [®] プレゼンテーション技能認定試験問題集」サーティファイ			
参考書				
備考				

科目名			担当者	
ビジネスマナー実務			小島 郁子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	演習	30 時間	必修 1 単位	無

授業の目的と到達目標	<p>実習や就職に備え、必要な一般常識やビジネスマナーを身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人となる心構えを持ち、ふさわしい立ち居振る舞いができる。 ・ 場面に応じた敬語を正しく使うことができる。 ・ 電話応対や来客応対など基本的なことができる。 ・ ビジネス能力検定ジョブパス 3 級程度の問題について正しい答えを選択できる。
授業の概要 達成課題	<p>ビジネス能力検定ジョブパスや秘書技能検定など、受験可能な検定試験までは、一通りの範囲を問題演習を交えながら学ぶ。 検定試験終了後は電話応対や来客応対、ビジネス文書等のマナーを実技を通して学ぶ。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 検定試験案内、授業概要、キャリアと仕事へのアプローチ 第 2 週 仕事の基本となる 8 つの意識 第 3 週 コミュニケーションとビジネスマナーの基本 第 4 週 指示の受け方と報告、連絡・相談 第 5 週 話し方と聞き方のポイント 第 6 週 来客応対と訪問の基本マナー、会社関係でのつきあい 第 7 週 仕事への取り組み方 第 8 週 ビジネス文書の基本 第 9 週 電話応対、統計データの読み方・まとめ方、問題演習 第 10 週 情報収集とメディアの活用、問題演習 第 11 週 会社を取り巻く環境と経済の基本、問題演習 第 12 週 来客応対演習 第 13 週 電話応対演習 第 14 週 ビジネス文書演習 第 15 週 まとめ</p>	
成績評価方法	・ 期末テスト
教科書	ビジネス能力検定ジョブパス 3 級公式テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
参考書	プリント配付
備考	毎回出席をとる。実技や演習中は、積極的に発言し参加してほしい。

科目名			担当者	
介護福祉総論			佐藤 紀子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「その人らしい生活を支援する専門職」として、基本となる考え方や姿勢を理解する。 ・私たち一人ひとりの生活には「違い」があることを学んだうえで、高齢者や障害をもった方々の「暮らし」や「生活」を理解する。 ・歴史的な経緯から介護を理解し、介護福祉士の役割と機能、専門性を理解する。 <p>*介護福祉士としての対人援助の経験を持つ教員が、介護の基本の授業を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生活とは何か、生活を支えるとは何かを学ぶ。また、生活についての基本的な理解を深め、介護を必要とする人を「生活する人」として受け止め、利用者の方一人ひとりの意向や生き方、生活習慣などを理解し、「その人らしさ」を大切にすることを学ぶ。 ・日本における介護の歴史的経緯、介護福祉士の成り立ち、介護福祉士の法的根拠を学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	介護の成り立ち 戦前の福祉政策
第 2 週	介護の成り立ち 戦後の福祉政策
第 3 週	介護が概念の変遷 1970 年代から 1980 年代
第 4 週	介護が概念の変遷 1990 年代から 2000 年以降
第 5 週	介護福祉の基本理念
第 6 週	介護福祉士の活動の場と役割①
第 7 週	介護福祉士の活動の場と役割②
第 8 週	介護福祉士及び社会福祉士法
第 9 週	介護福祉士養成カリキュラムの変遷
第 10 週	介護福祉士を支える団体
第 11 週	介護の専門性と倫理①
第 12 週	介護の専門性と倫理②
第 13 週	介護福祉士に求められる倫理
第 14 週	介護の倫理的問題
第 15 週	前期のまとめ
第 16 週	介護福祉（ケアワーク）の対象
第 17 週	対象者の理解①
第 18 週	対象者の理解②
第 19 週	介護福祉（ケアワーク）の定義①
第 20 週	介護福祉（ケアワーク）の定義②
第 21 週	介護福祉（ケアワーク）の定義③
第 22 週	介護福祉（ケアワーク）の定義④
第 23 週	介護福祉（ケアワーク）と関連領域①
第 24 週	介護福祉（ケアワーク）と関連領域②
第 25 週	介護福祉（ケアワーク）と関連領域③
第 26 週	介護福祉（ケアワーク）と関連領域④
第 27 週	国家試験対策①
第 28 週	国家試験対策②
第 29 週	後期のまとめ
第 30 週	総まとめ
成績評価方法	・小テスト（20%）、定期試験（80%）
教科書	最新介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 中央法規出版
参考書	印刷教材、プリント等
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職、介護福祉士になることを念頭に置きながら、常に自身の介護観を心に留め、目的と意欲をもって臨んでください。 ・評価について、上記に記載されている通りですが、授業に臨む態度や取り組む姿勢を重視します。

科目名			担当者	
介護福祉各論 I			佐藤 紀子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉の基本原則を理解できる。 ・高齢者、障害者等の介護を必要とする人々の暮らしが理解できる。 ・自立に向けた介護の在り方が理解できる。 ＊社会福祉士として相談援助業務実務経験者がこの科目を指導する。
授業の概要達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉職の目指す自立支援及び介護における ICF の考え方を理解し、利用者の方の「その人らしい暮らし、生活」について学びを深める。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第 1 週 生活は何か 第 2 週 介護を必要とする人たちの暮らし 第 3 週 介護を必要とする人たちの暮らし（高齢者） 第 4 週 介護を必要とする人たちの暮らし（障害者） 第 5 週 自立支援の考え方 第 6 週 自立支援と ICF の考え方 第 7 週 介護における ICF のとらえ方 第 8 週 「その人らしさ」とは何か 第 9 週 「生活ニーズ」の理解 第 10 週 生活のしづらさについて 第 11 週 日常生活から考える「生活のしづらさ」 第 12 週 「生活のしづらさ」に対する支援 第 13 週 家族介護者への支援 第 14 週 ICF を活用した支援 第 15 週 まとめ	
成績評価方法	・小テスト（20%）、定期試験（80%）
教科書	最新介護福祉士養成講座 3「介護の基本Ⅰ」中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」中央法規出版
参考書	適宜プリント配付
備考	

科目名			担当者	
介護福祉各論Ⅱ			相澤 洋子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>① 介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解する。</p> <p>② 介護福祉士に必要な感染に関する知識を得、対策について理解する。</p> <p>③ 介護の現場で協働する多職種の機能と役割を知り、連携と協働について理解する。</p> <p>④ 介護従事者の健康管理、労働環境の整備等から介護従事者の安全について理解する。</p> <p>*大学病院・福祉施設等で看護師として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。</p>
授業の概要 達成課題	<p>介護における安全とリスクマネジメントについて理解し、連携協働の中で対策を実行することができる。また、介護従事者の健康と安全について理解し、自分自身の健康管理を行うことができる。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 介護における安全の確保</p> <p>第 2 週 リスクマネジメントとは</p> <p>第 3 週 感染症対策</p> <p>第 4 週 多職種連携・協働の必要性</p> <p>第 5 週 多職種連携・協働に求められる基本的な能力</p> <p>第 6 週 多職種連携・協働に求められる基本的な能力</p> <p>第 7 週 保健・医療・福祉職の役割と機能</p> <p>第 8 週 保健・医療・福祉職の役割と機能</p> <p>第 9 週 多職種連携・協働の実際</p> <p>第 10 週 多職種連携・協働の実際</p> <p>第 11 週 健康管理の意義と目的</p> <p>第 12 週 こころの健康管理</p> <p>第 13 週 身体の健康管理</p> <p>第 14 週 労働勘定の整備</p> <p>第 15 週 まとめ</p>	
成績評価方法	定期試験で評価する。
教科書	介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 中央法規
参考書	最新介護福祉全書 3 介護の基本 メヂカルフレンド社
備考	「多職種連携」については、他の科目でも学ぶ重要ポイントです。理解を深めていきましょう。

科目名			担当者	
介護福祉各論Ⅲ			佐藤 紀子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	演習	60時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	目的：介護福祉士としての必要な基本的な考え方や姿勢を理解する。さらに、介護福祉における倫理を学び、安全管理やリスクマネジメントについて理解を深める。 介護福祉士として、介護を行う上で倫理や安全管理及びリスクマネジメントを踏まえたうえで介護実践を行うことができるようにする。
授業の概要 達成課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自立に向けた介護福祉のあり方と、介護倫理を踏まえて自立支援の考え方を理解する。 2. 介護における ICF を学び、自立支援とリハビリテーションを理解し、自立支援と介護予防についても学ぶ。 3. また、介護福祉を必要とする人の生活を支える仕組みを学び、さまざまな連携を学ぶ。 4. 地域連携の意義目的を理解して、地域連携の実際を学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 オリエンテーション 第2週 諸外国における介護福祉 イギリス 第3週 諸外国における介護福祉 ドイツ 第4週 諸外国における介護福祉 スウェーデン 第5週 生活経営と管理① 第6週 生活経営と管理② 第7週 要介護者の生活経営の課題① 第8週 要介護者の生活経営の課題② 第9週 要介護者の生活管理の課題① 第10週 要介護者の生活管理の課題② 第11週 介護の専門性と倫理 第12週 介護職に求められる倫理 第13週 介護の倫理的問題 第14週 介護福祉士の倫理綱領 第15週 まとめ	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・試験 (70%) ・小テスト 課題 レポート (30%)
教科書	『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』中央法規 最新版
参考書	必要に応じて資料を配布する
備考	必修科目

科目名			担当者	
コミュニケーション方法論 I			高橋 彰彦	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	演習	30 時間	必修 1 単位	有

授業の目的と到達目標	① 基本的知識と技術を身に着け、多様な障害のある方へも適切に個別支援できるようになる ② ご利用者様・ご家族様から信頼されるための技術が習得できる ③ コミュニケーションを通し、尊厳・自立支援・自己決定・自己選択の支援が実践できる ④ チームワークにおいても報告・連絡・相談を中心とした連携が適切にできる ⑤ 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力・思考力を養う ＊ 介護福祉士として実際に対人援助に関わった教員がコミュニケーション技術を担当する
授業の概要 達成課題	《授業で行う内容、与える課題等を記載》 講義に加え演習を効果的に行うことで、現場で実践できる技術を身に着けるようにする 予習・復習を促し、またプライベートでのコミュニケーションにおいても、授業で学んだことを実践し、効果を実感できるようにする 実習や就職した際のコミュニケーションへの不安が軽減でき、自信をもってコミュニケーションが取れるような実践的な内容にする
【各回のテーマ・内容・授業方法】 《テーマ／課題／宿題等を箇条書きで記載》 第 1 週 オリエンテーション、介護におけるコミュニケーションとは何か、コミュニケーションの目的 第 2 週 コミュニケーションの展開過程 第 3 週 コミュニケーション支援の対象者の理解 第 4 週 援助関係の特徴、コミュニケーションの手段、チームにおけるコミュニケーション 第 5 週 援助関係を構築するための原則（バイスティック 7 つの原則） 第 6 週 コミュニケーションの基本技術（傾聴の態度①） 第 7 週 コミュニケーションの基本技術（傾聴の態度②） 第 8 週 コミュニケーションの基本技術、傾聴の際の技法（繰り返し、質問） 第 9 週 コミュニケーションの基本技術、受容 第 10 週 コミュニケーションの基本技術、共感 第 11 週 言語・非言語・準言語コミュニケーション 第 12 週 目的別のコミュニケーション（動機づけ、リフレーミング） 第 13 週 集団におけるコミュニケーション、集団運営の留意点 第 14 週 高齢者の特性を理解したコミュニケーション支援 第 15 週 前期の振り返り	
成績評価方法	《評価方法（各回の小テスト、中間テスト、レポート、期末試験、出席率等）、その配分、評価基準を記載》 試験（50%） 受講姿勢・積極性（20%） 板書事項をノートに取る（10%） 講師の質問に対する回答内容の適切性・方法（10%） 居眠りの有無（10%）
教科書	コミュニケーション技術、中央法規、2019 発行
参考書	自作教材プリント使用
備考	・演習を多く取り入れますが、ふざけたり、照れたり、消極的にならないように、積極的に取り組んで下さい ・実践的な内容ですので、実践や実習にも活かせるように実行・行動して下さい

科目名			担当者	
コミュニケーション方法論Ⅱ			高橋 彰彦	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	演習	30 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	介護現場において、なぜコミュニケーション技術が重要なのか理解すると共に、コミュニケーションの基本技術と障害別の技術、チームとのコミュニケーション技術が理解・実践できるようになる。 ※介護福祉士・社会福祉士として現場でコミュニケーションをとってきた者が担当する
授業の概要 達成課題	講義に加え演習を効果的に行うことで、現場で実践できる技術を身につけるようにしていく予習・復習を促し、またプライベートでのコミュニケーション場面においても、授業内容を実践し、効果を実感できるようにしていく また、コミュニケーションを怖がらず、積極的にとれるようになることを目指す
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 コミュニケーション障害への対応①(視覚障害) 第 2 週 コミュニケーション障害への対応②(聴覚障害) 第 3 週 コミュニケーション障害への対応③(言語障害) 第 4 週 コミュニケーション障害への対応④(認知症) 第 5 週 コミュニケーション障害への対応⑤(精神・発達障害) 第 6 週 家族とのコミュニケーション① 第 7 週 家族とのコミュニケーション② 第 8 週 チームとしてのコミュニケーション 第 9 週 報告・連絡・相談① 第 10 週 報告・連絡・相談② 第 11 週 記録① 第 12 週 記録② 第 13 週 記録③ 第 14 週 記録④ 第 15 週 会議・議事進行・事例検討	
成績評価方法	試験 (70%) 受講態度 (10%) 取り組み方 (20%)
教科書	コミュニケーション技術
参考書	自作教材プリント使用
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・演習を多く入れますが、ふざけたり、照れすぎたり、消極的にならないように積極的に取り組んで下さい ・実践的な内容ですので、実践や実習に活かせるように実行・行動して下さい

科目名			担当者	
生活支援技術 I			高橋 彰彦 阿部 秀樹	非常勤 常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	演習	90 時間	必修 3 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>日常生活に支援が必要な方を理解し、基本的な生活支援技術を習得する。 さらに、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>*介護福祉士としての対人援助の経験を持つ教員が、生活支援技術の演習授業を指導する。</p>			
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・演習では介護する側、される側の両方を体験することにより、相手の立場や気持ちになって介護することの大切さを理解できるようにする。 ・演習は少人数制で行うことにより何度も繰り返し復習し、習熟度を高める。 			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
	第 1 週	オリエンテーション、介護の原則	第 16 週	前期振り返り
	第 2 週	生活支援の考え方、身体各部の名称	第 17 週	身じたくの介護とは
	第 3 週	休息・睡眠の意義と目的	第 18 週	洗顔・整髪の介助
	第 4 週	休息・睡眠の基本となる知識と技術	第 19 週	ひげの手入れ・つめの手入れ・耳の清潔の介助
	第 5 週	衣類寝具の衛生管理①	第 20 週	助
	第 6 週	衣類寝具の衛生管理②	第 21 週	衣服の着脱の介助①
	第 7 週	移動とは	第 22 週	衣服の着脱の介助②
	第 8 週	移動・移乗の基本的理解	第 23 週	排泄の介護とは
	第 9 週	体位変換の介助	第 24 週	トイレ・ポータブルトイレでの排泄の介護
	第 10 週	安楽な姿勢・体位を保持する介助	第 25 週	尿器、差込便器での排泄の介護
	第 11 週	車いす介助	第 26 週	おむつでの排泄の介護
	第 12 週	歩行の介助	第 27 週	排泄の介護振り返り
	第 13 週	食事の意義目的	第 28 週	入浴・清潔保持の介護
	第 14 週	自立に向けた食事の介護①	第 29 週	入浴の介助
	第 15 週	自立に向けた食事の介護②	第 30 週	清潔保持の介助 入浴の介護振り返り
成績評価方法	・定期試験			
教科書	最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術 I」中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 7「生活支援技術 II」中央法規出版			
参考書				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・実習室の使用に際し、各自環境整備や衛生管理に努め、施設実習の予行演習ができるようにしてください。 ・上記と同様、各自自身の身支度をしっかり整え、対象者を不快にさせるような状況や行動は慎んでください。 			

科目名			担当者	
生活支援技術Ⅱ			阿部 秀樹	常勤
			新沼 清孝	非常勤
			黒沢 麻美	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>① 利用者ひとりひとりがその人らしい生活を継続するために必要な生活支援の方法を理解し実践できる。</p> <p>② それぞれの障害に応じた生活支援の方法を学び、利用者の障害・能力に合わせ、自立を尊重した生活支援技術の取得を目指す。</p> <p>③ 介護を行うに当たり、他職種の役割と協働・連携について理解し、チームケアの重要性を知る。</p> <p>*介護福祉士としての対人援助の経験を持つ教員が、生活支援技術の演習授業を指導する。</p>			
授業の概要達成課題	<p>① 利用者の障害・能力に合わせた自立を尊重した生活支援技術を習得し、その生活を連続的にとらえることができるよう、講義・演習を実施する。</p> <p>② ころとからだのしくみ・障害の理解等の科目と重ね、アセスメントの視点や支援方法の根拠を理解する。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	基本的な介護技術の振り返り①（環境整備と衛生管理）	第 16 週	自立に向けた身支度の介護	
第 2 週	基本的な介護技術の振り返り②（移動、移乗、体位変換）、自立に向けた入浴の介護①	第 17 週	自立に向けた身支度の介護、口腔ケア	
第 3 週	自立に向けた入浴の介護②	第 18 週	口腔ケアの意義と目的	
第 4 週	入浴の介助の実際③、	第 19 週	心身の休息、介護現場とアロマセラピー	
第 5 週	自立に向けた移動の介護①、移動の介護②	第 20 週	介護現場とアロマセラピー	
第 6 週	移動の介護③	第 21 週	身支度の介護①（着脱）	
第 7 週	移動の介護④、排泄の介護①	第 22 週	身支度の介護②	
第 8 週	排泄の介護②	第 23 週	身支度の介護③、起き上がり・歩行の介護	
第 9 週	排泄の介護③、排泄の介護④	第 24 週	護	
第 10 週	振り返り①、振り返り②	第 25 週	起き上がり・歩行の介護、着脱の介護	
第 11 週	個別的な介護技術振り返り①（体位変換、食事）	第 26 週	着脱・移動の介護、PWC への移乗の介護	
第 12 週	個別的な介護技術振り返り②（排泄、着脱）、食事の介護①	第 27 週	ベッド上仰臥位からの PWC への移乗の介護	
第 13 週	食事の介護②	第 28 週	護	
第 14 週	食事の介護③、食事の介護④	第 29 週	杖歩行の介護	
第 15 週	前期振り返り	第 30 週	片麻痺杖歩行の介護、床上排泄の介護 片麻痺のある方に対する排泄の介護 総振り返り	
成績評価方法	・小テスト（20%）、定期試験（80%）			
教科書	最新介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 7「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版			
参考書				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・実習室の使用に際し、各自環境整備や衛生管理に努め、施設実習の予行練習が出来るようにしてください。 ・上記と同様、各自自身の身支度をしっかり整え、対象者を不快にさせるような状況や行動は慎んでください。 ・授業時間内での演習、体験には限界があるため、放課後や空き時間を使ってどんどん実習室を利用し、特に復習に力を入れて取り組んでください。 			

科目名			担当者	
生活支援技術Ⅲ			相澤 洋子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	① 各障害について理解を深め、正確な知識を習得する。 ② それぞれの障害に応じた生活支援の方法を学び、利用者の障害・能力に合わせ、自立を尊重した生活支援技術の取得を目指す。 ③ 介護を行うに当たり、他職種の役割と協働・連携について理解し、チームケアの重要性を知る。 * 大学病院・福祉施設等で看護師として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。			
授業の概要 達成課題	各障害をもつ人を理解し、支援方法及び留意点を理解する。 ころころからのしくみ・障害の理解等の科目と重ね、アセスメントの視点や支援方法の根拠を理解する。			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
《テーマ/課題/宿題等を簡条書きで記載》 第 1 週 障害児・者の生活支援の基本 第 2 週 運動機能障害のある人の生活支援技術① 第 3 週 運動機能障害のある人の生活支援技術② 第 4 週 内部障害のある人の生活支援技術 第 5 週 心臓機能障害のある人の生活支援技術① 第 6 週 心臓機能障害のある人の生活支援技術② 第 7 週 呼吸器の機能障害のある人の生活支援技術① 第 8 週 呼吸器の機能障害のある人の生活支援技術② 第 9 週 腎臓の機能障害のある人の生活支援技術① 第 10 週 腎臓の機能障害のある人の生活支援技術② 第 11 週 膀胱直腸の機能障害のある人の生活支援技術① 第 12 週 膀胱直腸の機能障害のある人の生活支援技術② 第 13 週 小腸の機能障害のある人の生活支援技術① 第 14 週 小腸の機能障害のある人の生活支援技術② 第 15 週 視覚障害のある人の生活支援技術① 第 16 週 視覚障害のある人の生活支援技術② 第 17 週 聴覚障害のある人の生活支援技術① 第 18 週 聴覚障害のある人の生活支援技術② 第 19 週 言葉に障害のある人の生活支援技術① 第 20 週 言葉に障害のある人の生活支援技術② 第 21 週 発達障害のある人の生活支援技術① 第 22 週 発達障害のある人の生活支援技術② 第 23 週 精神障害のある人の生活支援技術① 第 24 週 精神障害のある人の生活支援技術② 第 25 週 高次脳機能障害のある人の生活支援技術① 第 26 週 高次脳機能障害のある人の生活支援技術② 第 27 週 認知症の人の生活支援技術① 第 28 週 認知症の人の生活支援技術② 第 29 週 難病の人の生活支援技術① 第 30 週 難病の人の生活支援技術② ※小テストを実施する。				
成績評価方法	定期試験による評価とする。			
教科書	最新介護福祉全書 別冊 4 「障害別生活支援技術」 メヂカルフレンド社			
参考書	介護福祉士養成講座 「生活支援技術Ⅲ」 中央法規			
備考	その人らしい生活を支援するため、アセスメントの視点を持ち、介護を展開できるようにしましょう。			

科目名			担当者	
生活支援技術Ⅳ			永沼 和子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	演習	90 時間	必修 3 単位	無

授業の目的と到達目標	生活技術Ⅳは介護を必要とする利用者の QOL を高め、生きる意欲に結び付く生活援助について考え、援助の視点を明確に実践することができる力を養うことを目標としています。自立支援の観点から、家事援助や家庭における介護について基礎的な知識と技術を学び、高齢者の生活に寄り添った生活支援の態度を身につけることを到達目標としています。			
授業の概要達成課題	授業は利用者主体の生活支援ができるよう、日常生活や介護の基本的な知識について解説していきます。また、調理、裁縫、掃除などの実習を多く取り入れ基本的な生活技術について理解を深めていきます。授業を通して、その人らしい生活を継続していくための多様な生活のあり方を柔軟に受け入れ専門職として利用者の QOL の向上に役立つ支援の方法や態度を身につけます。			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	オリエンテーション	生活支援・生活の理解①	第 16 週	食生活 ⑤調理実習 (軟食の調理)
第 2 週	生活支援の視点・生活の理解②		第 17 週	食生活 ⑥調理実習 (疾病への配慮食)
第 3 週	生活支援・家事の意義と目的		第 18 週	食生活 ⑦調理実習 (介護予防の食事)
第 4 週	衣生活 ①被服の役割と機能		第 19 週	食生活 ⑧調理実習 (行事食・間食)
第 5 週	衣生活 ②被服素材の基礎知識		第 20 週	住生活 ①住環境整備の視点
第 6 週	衣生活 ③高齢者の衣生活		第 21 週	住生活 ②高齢者への配慮と住環境の工夫
第 7 週	裁縫 ①基礎縫い (手縫い)		第 22 週	住生活 ③住環境の管理・衛生
第 8 週	裁縫 ②基礎縫い (手縫い)		第 23 週	生活経営 ①自立に向けた家事の介護
第 9 週	裁縫 ③基礎縫い (ミシン縫い)		第 24 週	生活経営 ②QOL の向上にかかわる援助
第 10 週	裁縫 ④基礎縫い (ミシン縫い)		第 25 週	生活経営 ③消費者問題
第 11 週	衣生活 ④衣服の衛生と管理		第 26 週	課題調理 ①高齢者向け弁当 (計画)
第 12 週	食生活 ①栄養学概論		第 27 週	課題調理 ②高齢者向け弁当 (調理)
第 13 週	食生活 ②栄養学概論		第 28 週	資格認定試験対策①
第 14 週	食生活 ③高齢者の食生活と調理の工夫		第 29 週	資格認定試験対策②
第 15 週	食生活 ④調理実習 (和食・日常食の調理)		第 30 週	資格認定試験対策③
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内レポート 25% ・課題制作 25% ・提出課題など 25% ・テスト (実技テスト・筆記テストなど) 25% 			
教科書	最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 中央法規出版			
参考書	必要な資料があればこちらで準備します。			
備考	授業の内容により教室変更があります (使用教室は事前に連絡します)。調理実習では、エプロン・三角巾などの準備が必要です。			

科目名			担当者	
介護過程 I			佐藤 紀子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	演習	30 時間	必修 1 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の意義を理解し、その目的や目標について理解する。 ・介護の場における介護過程の必要性とその知識を身につける。 ・介護過程の実践に必要な知識・技術を身につける。 <p>*介護福祉士としての対人援助の経験を持つ教員が、介護過程の演習授業を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>介護福祉士には専門知識・技術を根拠とした、客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開能力が求められる。介護過程の展開にもとづいた生活支援が、利用者の「尊厳を守るケア」「個別ケア」を実現することを理解する。事例を通し介護過程を展開することにより、客観的な根拠に基づく介護の実践が可能になる。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 介護過程の展開を学ぶ前に 第 2 週 介護過程とは 第 3 週 生活支援における介護過程の必要性 第 4 週 介護過程の理解① 第 5 週 介護過程の理解② 第 6 週 アセスメント（情報収集）① 第 7 週 アセスメント（情報収集）② 第 8 週 アセスメント（解釈・関連づけ・統合化） 第 9 週 アセスメントの実際① 第 10 週 アセスメントの実際② 第 11 週 介護計画の立案① 第 12 週 介護計画の立案② 第 13 週 介護の実施 第 14 週 評価 第 15 週 まとめ</p>	
成績評価方法	・小テスト（20%）、定期試験（80%）
教科書	最新介護福祉士養成講座 9 介護過程 中央法規出版
参考書	最新介護福祉全書 別巻 3 ケアプラン演習 第 3 版 メヂカルフレンド社
備考	

科目名			担当者	
介護過程Ⅱ			阿部 秀樹	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 介護過程の基本的な知識を持ち、利用者の援助に際して適切な視点で関わられるようになる。 介護過程における情報収集・アセスメントを理解し、実践できる。 生活支援の課題・ニーズ、目標の設定についての確かな設定ができるようになる。 <p>*介護福祉士として対人援助の経験を持つ教員が、介護過程の演習授業を指導する。</p>
授業の概要達成課題	<p>チームアプローチにおける介護福祉士の役割とその重要性を理解し、利用者支援の実際について理解を深める。人の暮らしは、その人なりの生活歴、価値観、人との関わりなどが複雑に絡み合って成り立っている。個性が高く、かけがえのない人生に寄り添った支援を行う介護福祉士だからこそ知ることができる「生活することの意味」や「人生の尊さ」「介護福祉士としての仕事の魅力」などを学ぶ。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 介護過程の展開	第 16 週 生活課題の明確化（自立の解釈）
第 2 週 アセスメント（情報収集）	第 17 週 生活課題の明確化（快適の解釈）
第 3 週 情報収集の方法（ICF モデルの活用）	第 18 週 生活課題の明確化（安全の解釈）
第 4 週 生活像を組み立てる 3 つの観点	第 19 週 映像教材、事例を用いたアセスメント
第 5 週 ICF モデルを活用した情報収集の例示	第 20 週 ①
第 6 週 事例を用いた情報収集（ICF モデルを活用）①	第 21 週 事例を用いたアセスメント②
第 7 週 事例を用いた情報収集（ICF モデルを活用）②	第 22 週 事例を用いたアセスメント③
第 8 週 アセスメントの視点	第 23 週 事例を用いたアセスメント④
第 9 週 アセスメントの実際	第 24 週 認知症について
第 10 週 イメージとアセスメントの視点の関連付け	第 25 週 映像教材、事例を用いたアセスメント
第 11 週 事例を用いた情報収集（ICF モデルを活用）①	第 26 週 ①
第 12 週 事例を用いた情報収集（ICF モデルを活用）②	第 27 週 事例を用いたアセスメント②
第 13 週 情報の解釈・統合化とは①	第 28 週 介護目標と介護計画
第 14 週 情報の解釈・統合化とは②	第 29 週 介護目標の設定の方法
第 15 週 解釈のトレーニング	第 30 週 目標と生活課題の優先順位 具体的な支援内容・支援方法について ① 具体的な支援内容・支援方法について ②
成績評価方法	提出物（30%）、定期試験（70%）
教科書	最新介護福祉士養成講座 9「介護過程」中央法規出版
参考書	
備考	

科目名			担当者	
介護過程Ⅲ			阿部 秀樹	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の実践的展開を通し、利用者の方一人ひとりに合わせたよりよいサービスの提供とは何かを考え実践できる。 ・演習の中にグループワークを取り入れ、事例を通してどのように介護過程が展開されるのかを把握し、内容を深めていくことができる。 ・ICF の視点を理解した介護過程の展開を理解できる。 <p>*介護福祉士として対人援助の経験を持つ教員が、介護過程の授業を指導する。</p>			
授業の概要 達成課題	介護過程の展開を通して、チームアプローチの重要性を理解し、チームの一員として他職種と連携を図り、よりよいサービスの提供ができるようにする。			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	ICF モデルを活用した情報収集	第 16 週	実習Ⅱ担当ケースを用いた振り返り①	
第 2 週	健康状態について、生活機能について	第 17 週	振り返り②、具体的な支援内容・方法	
第 3 週	環境因子及び個人因子について	第 18 週	実施の記録①	
第 4 週	情報収集振り返り①	第 19 週	実施の記録②、評価の意義と目的	
第 5 週	情報収集振り返り②、人生のどの時期なのか	第 20 週	評価の方法	
第 6 週	どのような心身状態なのか	第 21 週	振り返り（課題分析、生活課題）	
第 7 週	どのように生活している人なのか	第 22 週	振り返り（介護計画目標、支援方法、）	
第 8 週	生活像からイメージを描く①	第 23 週	実習Ⅳ振り返り①	
第 9 週	生活像からイメージを描く②	第 24 週	実習Ⅳ振り返り②	
第 10 週	アセスメントの 3 つの視点	第 25 週	介護過程とケアマネジメントの関係性	
第 11 週	イメージとアセスメントの視点の関連付け	第 26 週	ケアプランと個別援助計画の関係性	
第 12 週	情報番号をアセスメントの視点別に整理する	第 27 週	チームアプローチにおける介護福祉士の	
第 13 週	自立の視点・快適の視点・安全の視点別の解釈	第 28 週	役割	
第 14 週	介護目標の設定、優先順位を考える	第 29 週	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開①	
第 15 週	具体的な支援内容・支援方法について	第 30 週	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開②	
第 16 週	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開③			
成績評価方法	定期試験（100%）			
教科書	最新介護福祉士養成講座 9「介護過程」中央法規出版			
参考書				
備考				

科目名			担当者	
介護総合演習 I			佐藤 紀子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>介護実習での学びを深めるために事前実習指導、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護の概念や対象及びその理念等について理解できる。 ・ 実習における知識、技術、態度を具体的かつ実際に学び、習得することができる。 ・ 実習の目標を設定することができる。 ・ 自己学習の習慣が身に付く。 <p>*介護福祉士としての対人援助の経験を持つ教員が、介護総合演習の演習授業を指導する。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>授業と実習の連携が円滑に行われるよう、介護福祉士になるための基礎づくりを行い、実習への動機づけを図る。実習 I～IVの体系を理解、目標を設定し、必要な知識や実習生としての心構え・態度の涵養を目的とする。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	介護総合演習の位置づけ	第 16 週	アセスメントの理解とその方法①	
第 2 週	介護総合演習の目的	第 17 週	アセスメントの理解とその方法②	
第 3 週	本校における実習の位置づけと概要	第 18 週	アセスメントの理解とその方法③	
第 4 週	実習先の理解①	第 19 週	アセスメントの理解とその方法④	
第 5 週	実習先の理解②	第 20 週	アセスメントの理解とその方法⑤	
第 6 週	実習先の理解③	第 21 週	アセスメントの理解とその方法⑥	
第 7 週	実習先の理解④	第 22 週	アセスメントの理解とその方法⑦	
第 8 週	実習先の理解⑤	第 23 週	アセスメントの理解とその方法⑧	
第 9 週	実習先の理解⑥	第 24 週	アセスメントの理解とその方法⑨	
第 10 週	実習における記録の必要性	第 25 週	アセスメントの理解とその方法⑩	
第 11 週	記録を書くときの留意点	第 26 週	アセスメントの理解とその方法⑪	
第 12 週	見学、実習の心構え	第 27 週	アセスメントの理解とその方法⑫	
第 13 週	見学に向けての事前学習①	第 28 週	アセスメントの理解とその方法⑬	
第 14 週	見学に向けての事前学習②	第 29 週	まとめ①	
第 15 週	体験見学	第 30 週	まとめ②	
成績評価方法	・小テスト (20%)、定期試験 (80%)			
教科書	最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版			
参考書	随時紹介します。			
備考				

科目名			担当者	
介護総合演習Ⅱ			阿部 秀樹 相澤 洋子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習に必要な総合的対応能力を身につけることができる。 ・要介護者の生活を介護福祉士の専門性を活かした視点でとらえることができる。 <p>*介護福祉士としての対人援助の経験を持つ教員が、介護総合演習の演習授業を指導する。 *大学病院・福祉施設等で看護師として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。</p>			
授業の概要達成課題	<p>専門職としての介護福祉士に求められる資質、技能、知識、自己の課題を的確に把握し、介護実習において実践ができるようにする。 実習を振り返り、事例研究をまとめ発表することができる。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	実習施設・事業等Ⅰの目的と主な実習内容	第 16 週	実習を通しての事例研究について	
第 2 週	想定される実習Ⅰのモデル	第 17 週	事例研究の目的と意義	
第 3 週	実習先の特徴の理解（デイサービス）	第 18 週	事例の研究論文を読む	
第 4 週	実習先の特徴の理解（ケアハウス）	第 19 週	事例研究の進め方①	
第 5 週	実習先の特徴の理解（訪問介護）	第 20 週	事例研究の進め方②	
第 6 週	実習先の特徴の理解（訪問入浴）	第 21 週	事例研究のまとめ方①	
第 7 週	実習施設・事業等Ⅱの目的と主な実習内容	第 22 週	事例研究のまとめ方②	
第 8 週	介護過程の展開を軸にした実習の目的①	第 23 週	実習Ⅳの振り返り（事例研究）①	
第 9 週	介護過程の展開を軸にした実習の目的②	第 24 週	実習Ⅳの振り返り（事例研究）②	
第 10 週	介護過程の展開を軸にした実習の目的③	第 25 週	実習Ⅳの振り返り（事例研究）③	
第 11 週	介護過程の展開を軸にした実習の目的④	第 26 週	実習Ⅳの振り返り（事例研究）④	
第 12 週	訪問入浴介護の実際	第 27 週	実習Ⅳの振り返り（事例研究）⑤	
第 13 週	実習Ⅱ振り返り	第 28 週	事例研究のまとめ 発表準備	
第 14 週	実習Ⅲ振り返り	第 29 週	発表	
第 15 週	前期まとめ	第 30 週	発表	
成績評価方法	・小テスト（20%）、提出物（80%）			
教科書	最新介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」中央法規出版			
参考書	最新介護福祉全書 8「介護総合演習」メヂカルフレンド社 「介護福祉研究入門」保育者			
備考				

科目名			担当者	
実習 I			阿部 秀樹	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	実習	96 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習の意義の重要性と、学内の講義、演習で学んだ知識や技術を具体的かつ実践的に理解できる。 ・利用者の方との関わりを深めながら、その方が求めている介護を提供することができるよう理解力、判断力を養う。 ・利用者の方の様々な生活の場、多種多様な介護サービスの理解につとめ、個々の生活リズムや個性を理解した上で個別ケアの重要性を理解できる。 <p>*介護福祉士としての実務経験のある教員が、介護実習の指導をする。</p>
授業の概要達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的コミュニケーションが図りやすい方1名を担当利用者とし、観察やコミュニケーションを通して全体像を把握し、実習記録にまとめる。 ・利用者との人間的触れ合いを通じて、コミュニケーションのあり方を学び、利用者の方一人ひとりの個性や生活リズムを尊重した個別ケアの実践、自立生活を送るためのニーズの把握、施設の機能並びに施設職員の一般的な役割について理解すること。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

【12 日間を通しての主な実習内容】

1. 実習オリエンテーション
2. 多様な介護サービスと施設の概要を理解する
3. コミュニケーションの実践を通し、そのあり方を理解する
4. 利用者の方との関わりの中でその方の特性、生活リズムを理解し、情報収集を行うことでより理解を深めていく
5. 介護福祉専門職、多職種の業務内容を把握し、多職種間での協働の実践を理解する
6. 基本的な介護技術を実践を通して学ぶ
7. 進行度に応じたケースカンファレンスの実施、反省会の実施

(1 日 8 時間 × 12 日 = 96 時間)

成績評価方法	実習評価表にもとづく総合評価
教科書	
参考書	
備考	介護実習という実践の場で、学内では学べないことを大いに、貪欲に学んできてください。

科目名			担当者	
実習Ⅱ			阿部 秀樹	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	実習	184時間	必修 4単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習Ⅰに引き続き、学内で学んだ知識や技術を介護実習の場で活用し、個別ケアを理解した上で利用者の方、ご家族の方とのコミュニケーションの実践、状況に応じた介護技術の提供、多職種や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解できる。 ・利用者の方のニーズに応じた適切な介護を実践するために、利用者の方が抱えている課題を明確にし、自立を支援するケアに着目しながら介護計画を作成していく中で、介護過程を展開することを理解できる。 <p>*介護福祉士としての実務経験のある教員が、介護実習の指導をする。</p>
授業の概要達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的コミュニケーションが図りやすい方1名を担当利用者とし、利用者の生活課題を明確に把握し、自立を支援するケアに着目しながら、アセスメント、ニーズの把握、介護計画を立案し、実習記録にまとめる。 ・個別ケアを理解した上でのコミュニケーション、生活支援技術の適正な使い方、他職種や関係機関との連携を通じた、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>【23日間を通しての主な実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習オリエンテーション 2. 施設の運営、多様なサービスとの連携により、サービスの提供における介護福祉専門職の職務を理解する（可能であれば変則勤務を体験する） 3. コミュニケーションの実践を通し、利用者の方個々に合わせたコミュニケーションの方法を用いて、有効なコミュニケーションの方法と技法を理解する 4. 利用者の方との関わりの中でその方の特性や生活リズムを理解し、ニーズに応じた適切な介護の実践を理解する 5. 利用者の方の課題を明確にするために、情報収集の中からその理解につとめ、介護計画を作成し、介護過程を展開することを理解する 6. 利用者の方の日常生活や状況に応じた個別的な介護技術を実践を通して学ぶ 7. 必要な介護記録の取り方を理解する 8. 進行度に応じたケースカンファレンスの実施、反省会の実施 <p style="text-align: right;">（ 1日8時間 × 23日 = 184時間 ）</p>	
成績評価方法	実習評価表にもとづく総合評価
教科書	
参考書	
備考	介護実習という実践の場で、学内では学べないことを大いに、貪欲に学んでください。

科目名			担当者	
実習Ⅲ			阿部 秀樹	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	実習	48時間	必修 1単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解できる。 ・「在宅介護」の分野の力量を十分に体得できるようにする。 <p>*介護福祉士としての実務経験のある教員が、介護実習の指導をする。</p>
授業の概要 達成課題	<p>利用者の方の生活形態、家族、地域社会との関連、自立支援、保健医療との連携について、対象者を中心としてどう展開されているのか等を実践を通して学び、理解できるようにする。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>【6日間を通しての主な実習内容】</p> <p>ケアハウス、老人居宅支援事業、デイサービスセンターなどを実習施設とし、居宅サービスを中心とする、利用者の生活の場である多様な介護現場において、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の理解 ・ 利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践 ・ 多職種協働の実践 ・ 介護技術の確認 <p>を行うことに重点を置き、実習を行う。</p> <p style="text-align: center;">(1日8時間 × 6日 = 48時間)</p>	
成績評価方法	実習評価表にもとづく総合評価
教科書	
参考書	
備考	介護実習という実践の場で、学内では学べないことを大いに、貪欲に学んでください。

科目名			担当者	
実習Ⅳ			阿部 秀樹	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	実習	184時間	必修 4単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習Ⅰ，Ⅱに引き続き、学内で学んだ知識や技術を介護実習の場で活用し、個別ケアを理解した上で利用者の方、ご家族の方とのコミュニケーションの実践、状況に応じた介護技術の提供、多職種や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解できる。 ・個別ケアの実践、利用者の方の課題を明確にするために、情報収集の中からその理解に努め、介護計画を作成、実施後の評価や、それを踏まえた介護計画の修正といった一連の介護過程を展開することを理解できる。 <p>*介護福祉士としての実務経験のある教員が、介護実習の指導をする。</p>
授業の概要達成課題	<p>一連の介護過程の展開において、これまでに学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を養い、専門職としてその専門性を発揮できるようにする。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>【23日間を通しての主な実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習オリエンテーション 2. 施設の運営、多様なサービスとの連携により、介護サービス全般における介護福祉専門職の職務を理解する（可能であれば変則勤務を体験する） 3. 多職種と連携して介護サービスを提供すること、チームの一員としての役割を理解する 4. コミュニケーションの実践を通し、利用者の方個々に合わせたコミュニケーションの方法を用いて、有効なコミュニケーションの方法と技法を理解する 5. 利用者の方との関わりの中でその方の特性や生活リズムを理解し、ニーズに応じた適切な介護の実践を理解する 6. 個別の介護計画を立案し、計画に沿って実施、実施後の評価、修正を含めた一連の介護過程を展開する 7. 利用者の方の日常生活や状況に応じた個別的な介護技術を実践を通して学ぶ 8. 必要な介護記録の取り方を理解し、まとめる 9. 進行度に応じたケースカンファレンスの実施、反省会の実施 10. 最終実習としての総まとめ <p style="text-align: right;">（ 1日8時間 × 23日 = 184時間 ）</p>	
成績評価方法	実習評価表にもとづく総合評価
教科書	
参考書	
備考	介護実習という実践の場で、学内では学べないことを大いに、食欲に学んできてください。

科目名			担当者	
発達と老化の理解			渡辺 隆夫 北川 公路	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>発達の見点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>*医師として臨床経験を持つ教員が、介護に必要な「発達と老化の理解」を担当する。</p>																																			
授業の概要 達成課題	<p>①人間の発達と老化を理解して、高齢者の気持ちを踏まえた介護福祉が実践できるようになる。</p> <p>②利用者と介護者の双方向の心理がわかるようになる。</p> <p>③老化と発達の根拠に基づき、利用者の社会参加や自己実現をめざす活動に関しての介護が実践できるようになる。</p>																																			
【各回のテーマ・内容・授業方法】																																				
<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; text-align:center;">(渡辺)</td> <td style="width:50%; text-align:center;">(北川)</td> </tr> <tr> <td>第1週 オリエンテーション、発達と老化とは何かⅠ</td> <td>第16週 老化に伴う心と体の変化の特徴Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>第2週 発達と老化とは何かⅡ</td> <td>第17週 老化に伴う心と体の変化の特徴Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>第3週 人間の成長と発達Ⅰ</td> <td>第18週 老化に伴う心と体の変化と日常生活への影響Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>第4週 人間の成長と発達Ⅱ</td> <td>第19週 Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>第5週 老年期の発達と成熟Ⅰ</td> <td>第20週 老化に伴う心と体の変化と日常生活への影響Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>第6週 老年期の発達と成熟Ⅰ</td> <td>第21週 Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>第7週 老年期の発達と成熟Ⅱ</td> <td>第22週 高齢者の心理Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>第8週 老年期の発達と成熟Ⅱ</td> <td>第23週 高齢者の心理Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>第9週 老年期の発達と成熟Ⅲ</td> <td>第24週 高齢者の心理Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>第10週 老年期の発達と成熟Ⅲ</td> <td>第25週 高齢者の疾病と生活上の留意点Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>第11週 老年期の発達と成熟Ⅳ</td> <td>第26週 高齢者の疾病と生活上の留意点Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>第12週 老年期の発達と成熟Ⅳ</td> <td>第27週 高齢者に多い病気と生活上の留意点Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>第13週 老年期の発達と成熟Ⅴ</td> <td>第28週 高齢者に多い病気と生活上の留意点Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>第14週 老年期の発達と成熟Ⅴ</td> <td>第29週 高齢者と健康</td> </tr> <tr> <td>第15週 前期まとめ</td> <td>第30週 保健医療職との連携 高齢者を取り巻く社会的背景についての理解 まとめ</td> </tr> </table>					(渡辺)	(北川)	第1週 オリエンテーション、発達と老化とは何かⅠ	第16週 老化に伴う心と体の変化の特徴Ⅰ	第2週 発達と老化とは何かⅡ	第17週 老化に伴う心と体の変化の特徴Ⅱ	第3週 人間の成長と発達Ⅰ	第18週 老化に伴う心と体の変化と日常生活への影響Ⅰ	第4週 人間の成長と発達Ⅱ	第19週 Ⅱ	第5週 老年期の発達と成熟Ⅰ	第20週 老化に伴う心と体の変化と日常生活への影響Ⅱ	第6週 老年期の発達と成熟Ⅰ	第21週 Ⅱ	第7週 老年期の発達と成熟Ⅱ	第22週 高齢者の心理Ⅰ	第8週 老年期の発達と成熟Ⅱ	第23週 高齢者の心理Ⅱ	第9週 老年期の発達と成熟Ⅲ	第24週 高齢者の心理Ⅲ	第10週 老年期の発達と成熟Ⅲ	第25週 高齢者の疾病と生活上の留意点Ⅰ	第11週 老年期の発達と成熟Ⅳ	第26週 高齢者の疾病と生活上の留意点Ⅱ	第12週 老年期の発達と成熟Ⅳ	第27週 高齢者に多い病気と生活上の留意点Ⅰ	第13週 老年期の発達と成熟Ⅴ	第28週 高齢者に多い病気と生活上の留意点Ⅱ	第14週 老年期の発達と成熟Ⅴ	第29週 高齢者と健康	第15週 前期まとめ	第30週 保健医療職との連携 高齢者を取り巻く社会的背景についての理解 まとめ
(渡辺)	(北川)																																			
第1週 オリエンテーション、発達と老化とは何かⅠ	第16週 老化に伴う心と体の変化の特徴Ⅰ																																			
第2週 発達と老化とは何かⅡ	第17週 老化に伴う心と体の変化の特徴Ⅱ																																			
第3週 人間の成長と発達Ⅰ	第18週 老化に伴う心と体の変化と日常生活への影響Ⅰ																																			
第4週 人間の成長と発達Ⅱ	第19週 Ⅱ																																			
第5週 老年期の発達と成熟Ⅰ	第20週 老化に伴う心と体の変化と日常生活への影響Ⅱ																																			
第6週 老年期の発達と成熟Ⅰ	第21週 Ⅱ																																			
第7週 老年期の発達と成熟Ⅱ	第22週 高齢者の心理Ⅰ																																			
第8週 老年期の発達と成熟Ⅱ	第23週 高齢者の心理Ⅱ																																			
第9週 老年期の発達と成熟Ⅲ	第24週 高齢者の心理Ⅲ																																			
第10週 老年期の発達と成熟Ⅲ	第25週 高齢者の疾病と生活上の留意点Ⅰ																																			
第11週 老年期の発達と成熟Ⅳ	第26週 高齢者の疾病と生活上の留意点Ⅱ																																			
第12週 老年期の発達と成熟Ⅳ	第27週 高齢者に多い病気と生活上の留意点Ⅰ																																			
第13週 老年期の発達と成熟Ⅴ	第28週 高齢者に多い病気と生活上の留意点Ⅱ																																			
第14週 老年期の発達と成熟Ⅴ	第29週 高齢者と健康																																			
第15週 前期まとめ	第30週 保健医療職との連携 高齢者を取り巻く社会的背景についての理解 まとめ																																			
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 (100%) (渡辺) ・定期試験 (80%)、提出物 (20%) (北川) 																																			
教科書	最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 (中央法規出版)																																			
参考書	『介護福祉のための医学一般』医歯薬出版株式会社 『目でみるからだのメカニズム』医学書院																																			
備考																																				

科目名			担当者	
認知症の理解			道又 顕	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人を理解し、認知症の本質について理解する。 ・認知症特有の症状やケアについてその知識を身につける。 ・認知症を取り巻く社会環境などを理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる知識を身につける。 <p>*作業療法士として認知症の人への作業療法経験を持つ教員が、認知症の対象者への対応方法について指導する。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>認知症の原因疾患を知り、その原因疾患ごとの症状の特徴を知ること、対象者（認知症の人）への関わり方の違いや介護負担感の軽減につなげていく。</p> <p>認知症の有無に関わらず重要な自立支援・自律支援・尊厳保持といったケアの理念を十分に理解する。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	認知症の定義と診断基準、認知症初期に生じる生活の支障	第 16 週	パーソン・センタード・ケアについて	
第 2 週	認知症の症状の全体像と特徴	第 17 週	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント	
第 3 週	脳の構造と機能、認知症の病理	第 18 週	①	
第 4 週	脳の構造と症状との関係、意識障害・うつとの違い	第 19 週	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント	
第 5 週	認知症の人の心理①	第 20 週	②	
第 6 週	認知症の人の心理②	第 21 週	認知症の人とのコミュニケーション	
第 7 週	認知症の中核症状の理解、生活障害の理解	第 22 週	認知症の人へのケア①	
第 8 週	BPSD の理解	第 23 週	認知症の人へのケア②	
第 9 週	認知症の診断と重症度	第 24 週	認知症の人へのケア③	
第 10 週	認知症の原因疾患と症状・生活障害	第 25 週	認知症への人へのさまざまなアプローチ	
第 11 週	認知症の治療薬と予防	第 26 週	認知症の人の終末期医療と介護	
第 12 週	認知症を取り巻く状況	第 27 週	環境づくり	
第 13 週	認知症ケアの理念と視点	第 28 週	家族への支援	
第 14 週	認知症当事者の視点から見えるもの	第 29 週	介護福祉職への支援	
第 15 週	前期のまとめ	第 30 週	制度、サービス、機関、地域づくり 多職種連携と協働 後期のまとめ	
成績評価方法	・小テスト 10%、定期試験 80%、課題 10%			
教科書	最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解（中央法規出版）			
参考書	講義時に関連資料の配布を行う			
備考				

科目名			担当者	
障害の理解			相澤 洋子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
1 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の生活上の様々な問題を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念、障害者福祉の基本理念について、説明することができる。 ・障害をもつ人の生活支援の根拠となる知識を身につけ、他職種と連携しながら支援していくことがイメージできる。 <p>*大学病院・福祉施設等で看護師として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。</p>
授業の概要達成課題	<p>障害のある人々の身体機能に関する基礎知識を学び、介護福祉士として必要となる、障害のある人に対する介護の視点を身に付ける。</p>

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	障害の概念	第 16 週	腎臓機能障害の理解
第 2 週	障害者福祉の基本理念	第 17 週	膀胱直腸機能障害の理解
第 3 週	障害者福祉に関連する制度	第 18 週	小腸機能障害の理解
第 4 週	障害者福祉制度と介護保険制度	第 19 週	HIV による免疫機能障害の理解
第 5 週	障害のある人の心理	第 20 週	肝臓機能障害の理解
第 6 週	肢体不自由（運動機能障害）の理解①	第 21 週	重症心身障害の理解
第 7 週	肢体不自由（運動機能障害）の理解②	第 22 週	知的障害の理解
第 8 週	肢体不自由（運動機能障害）の理解③	第 23 週	精神障害の理解
第 9 週	視覚障害の理解	第 24 週	高次脳機能障害の理解
第 10 週	聴覚障害の理解	第 25 週	発達障害の理解
第 11 週	言葉に障害のある人の理解	第 26 週	難病の理解
第 12 週	重複障害の理解第	第 27 週	連携と協働①
第 13 週	内部障害について	第 28 週	連携と協働②
第 14 週	心臓機能障害の理解	第 29 週	家族への支援①
第 15 週	呼吸機能障害のある人の理解	第 30 週	家族への支援②

成績評価方法	定期試験による評価とする。
教科書	介護福祉士養成講座 14 障害の理解 中央法規
参考書	随時紹介します。
備考	

科目名			担当者	
こころとからだのしくみ I			木原 美和 渡辺 隆夫	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的 と 到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービス提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。 *医師としての臨床経験を持つ教員が、介護に必要な「こころとからだのしくみ」の講義を担当する。			
授業の概要 達成課題	① からだのしくみ (生命維持・恒常性のしくみ、人体各部の名称、ボディメカニクス、関節の可動域など) ② こころのしくみ (人間の基本的欲求・社会的欲求、自己概念と尊厳、思考、学習・記憶・感情・動機づけ・適応など)			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
(宇月)		(渡辺)		
第 1 週	イントロ. と からだの成り立ちの理解 I	第 16 週	こころのしくみ基礎のまとめ	
第 2 週	こころのしくみ基礎 I	第 17 週	からだのしくみの基礎 I	
第 3 週	こころのしくみ基礎 I	第 18 週	からだのしくみの基礎 I	
第 4 週	こころのしくみ基礎 II	第 19 週	からだのしくみの基礎 I のまとめ	
第 5 週	こころのしくみ基礎 II	第 20 週	からだのしくみの基礎 II	
第 6 週	からだの成り立ちの理解 II	第 21 週	からだのしくみの基礎 II	
第 7 週	生命活動を調節するしくみ I	第 22 週	からだのしくみの基礎 II のまとめ	
第 8 週	生命活動を調節するしくみ II	第 23 週	からだのしくみの基礎 III	
第 9 週	生命活動を調節するしくみ III	第 24 週	からだのしくみの基礎 III	
第 10 週	主要症状からみる循環器	第 25 週	からだのしくみの基礎 III のまとめ	
第 11 週	自己実現 I	第 26 週	からだのしくみの基礎 IV	
第 12 週	自己実現 I	第 27 週	からだのしくみの基礎 IV	
第 13 週	自己実現 II	第 28 週	からだのしくみの基礎 IV のまとめ	
第 14 週	自己実現 II	第 29 週	総合のまとめ I	
第 15 週	自己実現のまとめ	第 30 週	総合のまとめ II	
成績評価方法	定期試験 100%			
教科書	最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ (中央法規出版)			
参考書	目でみるからだのメカニズム (医学書院)			
備考				

科目名			担当者	
こころとからだのしくみⅡ			相澤 洋子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>① 食事・入浴・排泄など生活活動の意味、目的を正しく理解し支援できるようになる。</p> <p>② 主な身体的機能を正しく理解し、機能低下の状況を的確にとらえ、医療職との連携を図ることができるようになる。</p> <p>③ 「死」および終末期から「死」までの身体機能の変化を理解し、状況に合わせ対応できるようになる。また、「死」を迎える本人・家族のこころの変化を理解し、受け止めることができるようになる。</p> <p>*大学病院・福祉施設等で看護師として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>人の生活を断片的ではなく流れとして捉え、次の活動につながるケアを科学的に考え提供できるようにする。</p> <p>また、介護の判断となる根拠を捉え、こころとからだのしくみからアセスメントの視点を持つことができるようにする。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	オリエンテーション	第 16 週	食事に関連したしくみ	
第 2 週	身支度に関連したしくみ	第 17 週	食事に関連したしくみ	
第 3 週	身支度に関連したしくみ	第 18 週	排泄に関連したしくみ	
第 4 週	身支度に関連したしくみ	第 19 週	排泄に関連したしくみ	
第 5 週	身支度に関連したしくみ	第 20 週	排泄に関連したしくみ	
第 6 週	移動に関連したしくみ	第 21 週	排泄に関連したしくみ	
第 7 週	移動に関連したしくみ	第 22 週	睡眠に関連したしくみ	
第 8 週	移動に関連したしくみ	第 23 週	睡眠に関連したしくみ	
第 9 週	移動に関連したしくみ	第 24 週	睡眠に関連したしくみ	
第 10 週	入浴に関連したしくみ	第 25 週	睡眠に関連したしくみ	
第 11 週	入浴に関連したしくみ	第 26 週	死にゆく人に関連したしくみ	
第 12 週	入浴に関連したしくみ	第 27 週	死にゆく人に関連したしくみ	
第 13 週	入浴に関連したしくみ	第 28 週	死にゆく人に関連したしくみ	
第 14 週	食事に関連したしくみ	第 29 週	死にゆく人に関連したしくみ	
第 15 週	食事に関連したしくみ	第 30 週	さまざまな場面での医療職との連携	
成績評価方法	定期試験による評価とする。			
教科書	最新介護福祉全書 12 「こころとからだのしくみ」 メヂカルフレンド社			
参考書	介護福祉士養成講座 「こころとからだのしくみ」 中央法規			
備考	一番身近でケアを提供している介護者としてどこに視点を置き、何を観察し、どのように報告、あるいは対応すればよいかを学びます。			

科目名			担当者	
医療的ケア実施の基礎			相澤 洋子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
1 年次・後期	講義・演習	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	① なぜ医療的ケアが必要かについて理解する。 ② 医療的ケアを安全かつ適切に実施するための基礎知識を身につける。 ③ 医療的ケアにかかわる制度を理解する。 ④ 利用者や家族の気持ちを理解する。 * 大学病院・福祉施設等で看護師として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。
授業の概要 達成課題	人間と社会・保健医療制度とチーム医療・安全な療養生活・清潔保持と感染・健康状態の把握等の医療的ケア実施の基礎について学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 《テーマ／課題／宿題等を箇条書きで記載》 第 1 週 なぜ医療的ケアを学ぶのか（介護福祉士が医療的ケアを学ぶことになった経緯） 第 2 週 医療的ケアの重要性・医療的ケア実施にあたっての心構え 第 3 週 個人の尊厳と自立・医療の倫理・利用者や家族の気持ちの理解 第 4 週 保健医療、医行為に関する法律 第 5 週 チーム医療と介護職員の連携・安全に喀痰吸引や経管栄養を実施する重要性 第 6 週 リスクマネジメントの考え方・ヒヤリハットとアクシデントの報告・救急蘇生法について① 第 7 週 救急蘇生法について② 第 8 週 救急蘇生法演習 第 9 週 感染予防・介護職員の感染予防・療養環境の清潔、消毒法 第 10 週 滅菌と消毒 第 11 週 感染対策の演習 第 12 週 身体・精神の健康 第 13 週 健康状態を知る項目（バイタルサインなど） 第 14 週 バイタルサインの観察演習・救急蘇生法の演習 第 15 週 急変状態について ※ 講義実時間 1 週 90 分 × 12 18 時間	
成績評価方法	期末試験（70%）・救急蘇生法の実技テスト等（30%）による総合評価とする。
教科書	最新介護福祉全書 13 医療的ケア メヂカルフレンド社
参考書	新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 中央法規
備考	医療的ケアを必要としている方を理解し、安全に実施できるように知識と技術を習得できるようにする。

科目名			担当者	
喀痰吸引			相澤 洋子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次・前期	講義・演習	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	① 呼吸のしくみと働きを理解する。 ② 喀痰吸引実施の際の留意点や緊急時の対応など実践的知識を得る。 ③ 喀痰吸引の実施手順を身につける。 * 大学病院・福祉施設等で看護師として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。
授業の概要達成課題	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引について、呼吸のしくみと働きや人工呼吸器など基礎知識と実施手順・留意点を学ぶ。また手順にそって演習を行い、技術を習得する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 呼吸器のしくみと働き 第 2 週 いつもと違う呼吸状態 第 3 週 喀痰吸引とは・喀痰吸引で用いる器具、器材とそのしくみ、清潔の保持 第 4 週 人工呼吸器と吸引① 第 5 週 人工呼吸器と吸引② 第 6 週 子供の吸引について・喀痰吸引に伴うケア 第 7 週 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意・呼吸器の感染と予防 第 8 週 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認 第 9 週 急変・事故発生時の対応と事前対策、報告及び記録 第 10 週 喀痰吸引の実施の手順と留意点① 第 11 週 喀痰吸引の実施の手順と留意点② 第 12 週 喀痰吸引の実施の手順と留意点③・基礎確認テスト 第 13 週 喀痰吸引演習 第 14 週 喀痰吸引演習 第 15 週 喀痰吸引演習 ※ 講義実時間 1 週 90 分×12 18 時間	
成績評価方法	基礎確認テスト合格後、実技試験を行う。
教科書	最新介護福祉全書 13 医療的ケア メヂカルフレンド社
参考書	新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 中央法規
備考	喀痰吸引を必要としている方を理解し、安全に実施できるように知識と技術を習得できるようにする。 基礎確認テストを行い、合格者のみ演習を行うこととする。

科目名			担当者	
経管栄養			相澤 洋子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次・前期	講義・演習	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>①消化器系のしくみと働きを理解する。</p> <p>②経管栄養の実施の際の留意点や緊急時の対応など実践的知識を得る。</p> <p>③経管栄養の実施手順を身につける。</p> <p>* 大学病院・福祉施設等で看護師として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。</p>
授業の概要達成課題	<p>高齢者及び障害児・者の経管栄養について消化器系のしくみとはたらきや注入する内容についての知識、実施手順・留意点を学ぶ。また手順にそって演習を行い、技術を習得する。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>《テーマ／課題／宿題等を箇条書きで記載》</p> <p>第 1 週 消化器系の働きとしくみ</p> <p>第 2 週 消化器の主な症状</p> <p>第 3 週 経管栄養とは・経管栄養に用いる器具、器材とそのしくみ、清潔の保持</p> <p>第 4 週 注入する内容に関する知識</p> <p>第 5 週 経管栄養実施上の留意点・子供の経管栄養について</p> <p>第 6 週 経管栄養に必要なケア</p> <p>第 7 週 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意・経管栄養に関する感染と予防</p> <p>第 8 週 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認</p> <p>第 9 週 急変・事故発生時の対応と事前対策・報告及び記録</p> <p>第 10 週 経管栄養の実施の手順と留意点①</p> <p>第 11 週 経管栄養の実施と手順と留意点②</p> <p>第 12 週 経管栄養の実施と手順と留意点③・基礎確認テスト</p> <p>第 13 週 経管栄養演習</p> <p>第 14 週 経管栄養演習</p> <p>第 15 週 経管栄養演習</p> <p style="text-align: right;">※ 講義実時間 1 週 90 分×12 18 時間</p>	
成績評価方法	<p>基礎確認テスト合格後、実技試験を行う。</p>
教科書	<p>最新介護福祉全書 13 医療的ケア メヂカルフレンド社</p>
参考書	<p>新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 中央法規</p>
備考	<p>経管栄養を必要としている方を理解し、安全に実施できるように知識と技術を身につけるようにする。</p> <p>基礎確認テストを行い、合格者のみ演習を行うこととする。</p>